

令和3年度の生活習慣病検診従事者講習会を令和3年11月27日(土)の14時より、国内でのCOVID-19の感染は減少傾向にありますが感染防止拡大のため、ホテルメトロポリタン秋田を配信元としてweb開催させていただきました。参加人数は前回を上回る29人となり、機材等のトラブルもなく順調に開催することができました。

講習内容としてはまず情報提供ということで伏見製薬株式会社の門脇大輔先生より「大腸CT検査について」の講演をしていただきました。大腸CT検査をより信頼性の高い検査にするためにも便標識(Fecal Tagging)が必要であり、これを行うことにより腸管内残渣と造影剤を混和して残渣のCT値を高めることができる。この効果によって腸管組織、病変と残渣の識別性が高まり、腸管内残渣を取り除かなくても精度の高い検査が可能であることを説明していただきました。

次に一般講演として秋田県健康福祉部 健康づくり推進課 がん・生活習慣病対策班 主幹兼班長の寺内淳一先生より「秋田県のがん対策について」の講演をしていただきました。秋田県はがんの死亡率が高く健康寿命も1位の山梨県と比べても20年も差があるほど低いということで、もっと健康寿命を上げるためにも「健康秋田いきいきアクションプラン」という活動を進めている。がん予防(1次予防)としてたばこへの対策として健康増進法の改正と秋田県受動喫煙防止条例の内容を交えて「受動喫煙ゼロそして禁煙」の事業推進などを進めている。そして、がん予防(2次予防)として、がん検診の重要性と「第3期秋田県がん対策推進計画」として令和5年度末までに受診率50%を計画しているが現状は10%であるため受診率向上にむけての取り組みを行っていることなどについてお話していただきました。

最後に特別講演としまして公益財団法人 宮城県対がん協会所長の加藤勝章先生より「読影補助のためのカテゴリー判断の基礎知識」について講演をしていただきました。胃X線検診において検診読影は精密読影と違い所見をカテゴリー選択で表明できる。局所所見の良悪性判定はカテゴリー1~5にわけることができ1~3aは良性、3b~5は悪性である。良性でも2ではなく3aなのかをどう判別するかは要医療にすべき良性疾患がわかること、3bは実質的な良悪性の境界であることなど病変所見を胃X線画像と内視鏡画像などで比較し、各所見における抑えるべきポイントを丁寧に説明していただきました。また、放射線技師がチェックした所見にカテゴリー判定を付記してレポートを提出できれば読影医師の補助ができる。カテゴリー判定を使いこなすためにも、日々の業務において撮影や読影をやりっ放しにしない事などとても有用なお話しをしていただきました。

最後に雪もちらつく寒い中会場にお越しいただきました先生方、座長を担当された委員の皆様、関係各所の方々のご尽力に感謝いたします。

文責:柳原

